

区分	提言内容
教 育 文 化	<p>教育改革（将来子どもが帰って来たくなくなるようなしくみづくり）</p> <p>■ ゆとり教育の失敗により文部科学省の方針に迷いがある。市独自の見識により「これからの時代を生き抜く力」を育てるため、体育館やプールなど老朽化しているため、改築してほしい。</p>
	<p>■ 中学校選択制とPTA活動、保護者、学校、地域の連携について</p> <p>平成16年から制度が始まり、現在、南中学校の生徒数の5分の1（約60名）が校区外通学となっているが、こうしたことを背景に地域別のPTA評議員選出や校区PTAの各活動がスムーズに行えなくなり、地域との連携懸念が生じており、以下2点を提言する。</p> <p>① 校区外通学の人数制限をしてほしい。</p> <p>② 学校主体となって、学校、地域、保護者が一体となるような活動を展開していただきたい。</p> <p>提言実現の効果としては、地域の活性化、教育現場の活性化が図られる。</p>
	<p>子供たちをはじめ、すべての人が将来にわたって、いきいきと暮らすことができるようにするためには、何よりも食が重要だと思う。ここ数年、食生活環境が変化し、その影響が顕在化し、栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、食の安全など、さまざまな問題が生じている。</p> <p>さまざまな食育推進の取り組みを進められることが期待されており、例えば、作った人の顔が見える野菜を使った給食、地域の方たちと一緒に作った季節の野菜を使った給食、地産地消と今言われているが、まだまだその取り組みは少ないと思う。子供たちと一緒に野菜を作れば、いつの季節にこの野菜ができるのか、野菜を作ることがこんなにもたいへんなのか、食材を大切にしなければならないという気持ちが生まれると思う。子供たちの、農業に対する理解も深まると思う。一品目からでも、この新居浜校区で育てられた野菜を子供たちに届ける取り組みを考えてもらいたい。また、少子化対策、子育ての一環として、給食費の無料化にもご検討いただきたい。</p>
	<p>小学校を「休校」から「廃校」とし、小学校の跡地を有効利用して、地域の活性化につなげたい。</p> <p>地域人と来島者が集い学びあい交流を深めるための「滞留型交流施設」が必要。</p>
	<p>■ 教育と福祉の両面を重視した公民館運営について</p> <p>新たな地域交流センターについて、</p> <p>① 新居浜市立公民館運営規則に定めるような事業以外に、館内に社会福祉協議会支部の事務局を設置し、地域福祉の増進に努める旨の趣旨を追加することを認めていただきたい。</p> <p>② 施設の名称については、従来の「〇〇公民館」ではなく地域福祉の向上に寄与する活動も実施していくことが住民に伝わるような名称にしていただきたい。</p> <p>③ 校区で独自に活用できる施設は公民館のみであるため、地域福祉の拠点に位置付けることを認めていただきたい。</p> <p>提言実現の効果としては、地域住民に対し、新たな施設が地域福祉に貢献していると実感していただくことで、地域の連帯感が強まるとともに、施設利用に係る受益者拡大にも繋がる。</p> <p>金子校区としては、今後、公民館改築をきっかけに、住民の立場にたった地域福祉の向上につながるような活動</p>
	<p>スポーツ立国(市)宣言</p> <p>■ 文武両道を旨とし世界に通用するスポーツマンの輩出と新居浜人の誇りにつながるような風土づくり</p> <p>① スポーツ専任部署の独立により、2017年国体を意識した全市的なスポーツのレベルアップ。</p> <p>指導者の把握と組織化、徹底した指導現場の現状把握、最先端の指導ノウハウの提供、指導者の先進地研修制度の導入、スポーツ環境の充実と市民意識の高揚、スポーツ版モニターペアレンツへの対応指導。</p> <p>② 甲子園が目指せる土壌作り</p> <p>これ以上の有望選手流出に歯止めをかけるとともに、野球関係者が一致協力することにより新居浜から甲子園を狙えるチームをつくる。</p> <p>③ 小中高の教員人事に左右されない地域の指導者の確保と調整機関の設立（小中高の一貫した指導体制の維持）</p>
	<p>① スポーツ施設の充実</p> <p>市内には、市民体育館と山根総合体育館と多喜浜体育館と3か所あるが、どちらの施設も中途半端で、空調設備がなく、全国大会の公式試合ができないため、他市で行われることになり、新居浜の子供たちも他市へ出かけなければならない。1か所でもいいから新しい体育館をつくっていただき、逆に他市から集まってくるような体育館や施設をつくってほしい。</p>
	<p>② スポーツをしている中学生の進学について</p> <p>小中学校のときにスポーツに励み、さらに上を目指す子供たちが、よい指導者や強いチームを求め、他市へ出ていく傾向が見られる。他市へ出ていくことになれば、経済的にも身体的にも負担が大きい。できるなら、市内の高校で、さらに上を目指すことができるようになればいいと思う。県立高校であるため、難しい面もあると思うが、スポーツ学科の設置、指導者の確保、練習環境の整備などに、市の方でも力を入れてほしい。</p>
	<p>明日から甲子園で全国高校野球大会が始まるが、愛媛県大会において、新居浜市内の高校6校はいずれも2回戦までに敗退し、悲しい。同じ県立高校の今治西、西条高校のようになればいいので、合わせてご検討願</p>

人生85年時代に、健康でい続けるため、また世代間の交流を図るため、スポーツをもっと振興させることが必要と思われる。できることであれば、芝のグランドゴルフ場など、全国的な大会を開くことができるぐらいの環境整備も行っておきたい。総合健康運動公園構想も実現してほしい。

他市にまけないコンサートホールを建設してほしい。郷土芸能を保全したり、有名人を呼んで、文化市事業の活性化になる。活気のある魅力あるまちにしてほしい

駅前の芸術文化施設は県内でも誇れる施設にしてほしい。太鼓台、塩田遺跡など展示施設も力を入れて、10年後を見据えた立派な施設となるようにしてほしい。

えんとつ山の整備(発表有り)

大山積神社と日本庭園間の雑木林の整備について

えんとつ山エリア公園整備の重要な位置づけとして、地元を中心とする有志組織による上記ゾーンへの整備着手の考え方とすり合わせについて。別子銅山文化遺産課を中心とする行政チームとえんとつ山作務組織(地域住民主体)との連携のあり方

産業遺産や文化遺産を残していくことが未来の新居浜を考えてく上で大切である。

惣開校区には、別子銅山と、住友各社との強い結びつきで、現在まで発展してきた。新居浜市の長期総合計画のなかでも、近代化産業遺産のロマン息づくまちづくりを掲げており、この地区は近代化産業遺産に多く恵まれており、大変歴史の深い地域である。

しかし、上部地区にはマイントピア別子、川東地区にはマリンパーク新居浜といったテーマパークがある。川西地区にも、この星越地区に新居浜市にふさわしいシンボリックなテーマパークが必要だと思っており、これをまちづくりの柱としたいと考えている。

山田社宅・星越駅舎・星越トンネル等、昭和初期の景観が残っており、生きた博物館的な存在であり、テーマパークにふさわしい地区だと思っている。

また、惣開公民館では、近代化産業遺産関連の講座を開催しており、先人の足跡を訪ねて、地域の歴史を学ぶ学習を重ねてきている。

まちづくりにおいては、この地区でいえば、産業遺産、豊かな自然、住民が宝である。公民館をまちづくりの拠点として、各種企業団体が、学習や各種活動をし交流することにより自分のまちに愛着を持ち、地域を愛する心が育ちそれがまちづくりにつながると考えている。

提言の第1としては、公民館を星越の山田社宅エリアに移転し、その公民館は、平屋建てで、今の社宅にマッチした外観にする。それを中心に残った産業遺産を保存活用していく。同時に公民館に、触れ合い交流館(グランドゴルフ場、宿泊研修所も併設)を併設する。

第2として、星越駅舎を整備して、先人の精神を伝承するモニュメントとして資料館を設置する。

第3として、池・王子川を整備。

第4として、星越を1周する遊歩道の整備。

新居浜市の歴史・文化・文化財を子供たちにもわかるようにし、自分の住む地域の歴史を学んで誇りに思い、歴史と文化が暮らしを彩れるよう、短期的・中期的・長期的な取組を行い、新居浜市を誇れるように後世に伝えていけるようお願いしたい。

多喜浜塩田文化の保存継承事業の発展

1 啓発活動を組織的、計画的に継続して取り組む後継者の育成を図ること。
2 時間の経過とともに塩田作業体験者が少なくなっている。塩づくりに携わった人々やその時代を生き抜いた人達による体験談、作業内容や方法、道具の扱い方、暮らしのあれこれ等、聞き取り調査や座談会を開催して収録すること。

3 街づくりの究極的なねらいであり、シンボリックな存在になる塩田資料館の建設であり運動が途絶えることなく、粘り強く継続されること。

近世多喜浜塩田の資料を含め、家・屋敷を塩田資料館などに活用すること(海洋文化(塩づくりのふる里)の拠点とする。